

## CLUB KIBI ものづくりから世代間交流

事業主体 名称：CLUB KIBI（クラブ キビ）

事業実施場所 吉備中央町上田西地区・上竹地区・和田地区

～事業を始めるにあたって～

子どもの体験活動の必要性が全国的に指摘されている中、備前県民局管轄エリアの子どもたちに体験活動の機会を広く提供できたらと考えています。同じく、子どもたちの保護者の世代においても豊富な体験活動経験が少ないことも指摘されております。本事業はものづくりの体験活動通して参加者の皆様が交流することを意図しております。毎回の活動の講師は、吉備中央町で農産物の生産や自然から採れる素材を加工している方々で、高齢者にもあたる方が多いです。そのような関わりの中から、自然とともに生きることや、ものづくりの喜びを感じる交流を図りたいと考えています。

～事業実施内容～

### 体験型交流等事業

<第1回>

- ①事業名 「あそびをつくる(水車をつくる)」
- ②参加人数 祖父母世代3名、親子9組（保護者11名、子ども13名）
- ③日時 令和2年8月22日（土）9:30～12:30
- ④場所 吉備中央町和田地区
- ⑤内容 講師：水車づくり（古賀智己氏）  
内容：川遊び、水生生物の観察とリリース、水車小屋で水車レクチャー  
田んぼ水路散策、水車づくり、おにぎりづくりと世代間交流



### ⑥活動の成果等

「あそびをつくる(水車をつくる)」を実施した。まず、田んぼの散策を通して、河川や水路、水と生物に関する知識を体験的に深めた。前日に仕掛けた網で捕獲した川の生物を観察することや、虫取り網を使って水生生物を集め、どのような生物が川に息づいているかを捉え、川の水の恩恵を感じる体験を行った。さらに、講師により、水の流れを活用した水車とその機構を確認し、実際に精米する工程を見ることで、身近にある「米」と水の関係、水から動力を生み出す先人の知恵に触れた。その後、参加者自ら、簡単な

水車モデルを制作した。すべての体験の後、参加者と水車で精米したお米でおにぎりを作り、交流した。

<第2回>

- ①事業名 「あそびをつくる(ツリースイングをつくる)」
- ②参加人数 祖父母世代3名、親子7組(保護者7名、子ども9名)
- ③日時 令和2年10月17日(土) 9:30~12:30
- ④場所 吉備中央町上竹 矢萩の森
- ⑤内容 講師:ブランコづくり(菅野浩司氏)  
内容:里山散策、ブランコづくり、塗装の乾燥待ちと柿・葡萄狩り・ブランコ遊びと交流



⑥活動の成果等

世界にひとつだけの「マイブランコ」の製作を通して、祖父母世代と保護者、その子ども、家族間の交流を行った。木々の生い茂った矢萩の森キャンプ場の森の中を散策し、木の上に掛けたロープに、参加者が制作した「マイブランコ」を取り付けた。手順は、講師の指導の元、木の板をノコギリで切り出し、ロープを通す穴をドリルであけた。やすりをかけたり、好みでペイントしたりと講師と参加者間との交流を楽しんだ。ロープにブランコをとりつけ、ひとりひとつのマイブランコあそびを楽しんだ。振返り会の後、解散した。

<第3回>

- ①事業名 「住をつくる(ろうそくをつくる)」
- ②参加人数 祖父母世代3名、親子7組(保護者8名、子ども9名)
- ③日時 令和2年12月19日(土) 12:30~16:00
- ④場所 吉備中央町上竹 矢萩の森
- ⑤内容 講師:ろうそくづくり(菅野浩司氏)  
内容:里山散策、枝の切断と形作り、粘土型制作、みつろう流し込み、ろうそく鑑賞と世代間交流



#### ⑥活動の成果等

世界にひとつだけの「あかり（ろうそく）」づくりを行った。祖父母世代の講師とともに、森の中を散策し、お気に入りの木の枝、形の気に入った枝を集めた。ろうそくの形を整えるため、のこぎりや小刀を使用し、枝を整形した。ちょうどよい形ができたなら、土粘土に押し当てて枝の型をつくり、芯をつくって型にろうを流し込んだ。木の枝や木片を活用し、燭台も制作した。丸太をろうそくにする「スウェーデントーチ」の実演も行った。

#### <第4回>

- ①事業名 「食をつくる(味噌をつくる)」
- ②参加人数 祖父母世代4名、親子11組（保護者13名、子ども16名）
- ③日時 令和3年2月20日（土）12:30～16:30
- ④場所 吉備中央町上田西地区
- ⑤内容 講師：味噌づくり（藤井順子氏）  
内容：豆腐作り、味噌作り、巣箱づくり（12月ろうそくづくりと関連）  
豆おにぎりづくりと豆腐の試食と世代間交流



#### ⑥活動の成果等

6月に畑に植えた大豆と塩と8月の水車で精米した水車米麴をまぜてみそづくりを行った。祖父母世代の講師のもと、毎年仕込んでいる味噌を味わうことや、大豆から豆乳をつくり、その豆乳で豆腐を作り、大豆をご飯に炊き込んで豆ごはんをつくり、交流した。子どもたちだけでなく、保護者も大豆を使った味噌、豆乳、豆腐づくりははじめてであり、その喜びと驚きを参加者と共有した。

#### 地域ぐるみ会議の開催

#### <第1回>

- ①参加人数 5人

参加者：祖父母世代講師 2 名、スタッフ 3 名等

- ②日 時 令和 2 年 8 月 1 日 18:00～19:30
- ③場 所 岡山市内庭瀬近隣カフェ
- ④内 容 地域の関係者として事業の講師（祖父母世代）をお招きし、地域の課題、可能性、本活動の今年度の計画等について話し合いを行った。地域の課題に関しては、耕作放棄地の活用の課題、情報発信の課題などを検討した。地域の可能性にふれ、本事業の着実な実施の意義を確認した。
- ⑤活動の成果等 今後の計画としては、定期的な開催を行うため、隔月第 3 土曜日の実施とすることで、参加者が認識しやすく、予定も立てやすく、参加しやすくなり、参加者が増加することを期待することとなった。そのことにより連携の強化を図ることとなった。

#### <第 2 回>

- ①参加人数 4 人  
参加者：祖父母世代講師 1 名、スタッフ 3 名等
- ②日 時 令和 3 年 2 月 26 日 19:00～20:30
- ③場 所 岡山市内総合グラウンド近隣カフェ
- ④内 容 地域の関係者として事業の講師（祖父母世代）をお招きし、地域の課題、可能性、本活動の今年度の振り返りおよび次年度計画等について話し合いを行った。
- ⑤活動の成果等 今回の事業を振り返りでは、参加者のコメントや、講師の感想を確認した。定期開催することを踏まえ、来年度の実施計画を検討した。

#### ～事業を終えて～

##### ○事業実施による効果

備前県民局管轄エリアの子どもたちに体験活動の機会を広く提供することにより、ものづくりの楽しさ、協働の楽しさにふれることができた。人の手によってできている日常生活を支える様々なものを理解する機会を提供することができた。体験活動により、ものをつくるための手順、分量、創作の意欲等の涵養にもなったと考える。体験活動に関心の高い保護者の参加は、ものづくりの体験活動通じた交流を促し、祖父母世代との知恵の交流だけでなく、多様な世代での交流の機会となった。都市では得ることのできない交流を生み出すことができた。

##### ○今後の課題・展開

昨年の反省を活かし、開催を隔月の第三土曜日として、わかりやすくする方法をとった。そのことにより、昨年に比べて参加者の数を増やすことができた。一方、小学校によっては、コロナ禍の中でのイベント案内を控えたところもあることが察せられる。今後の広報活動の課題としたい。

##### ○まとめ

この事業は、のべ98名の参加により、4回の世代間交流の機会を得ることができた。  
この事業を継続していくことにより、地域の関係人口が増加し、地域の魅力にもつながっていきと考えられる。